

—使うほどに、木の温もりが手に馴染んでいく

最近見直されている、人気の『木製ステッキ』の魅力とは!?

— 土屋 雄一さん

取材・レポート：『めづるくらし』研究会 編集部

古来から愛用されてきた（ステッキ）の進化や歴史を見ると、時代や人々の生活を映す鏡のような一面を持っている。

近代の日本、明治から大正時代は紳士のおしゃれアイテムといえば、大曲のステッキにシルクハット。他にも杖手元に象牙や水牛、貴金属を用いた豪華なステッキもあった。ステッキは紳士、淑女のステータスであった。昭和初期の頃のハイカラな若者たちは、ステッキをアクセサリとして携帯。「うちのお祖父さんが持っていた」と耳にするのもこの頃の話である。

しかし太平洋戦争から終戦を迎え、ステッキをおしゃれで持つ人は激減。効率優先の高度成長期に入ってから、生活も合理性や利便性が重視され、ステッキも実用一点張りの時代になっていく。歩行補助としての機能性は高くなったが、その反面、無機質で「格好悪い」「年寄りのもの」などといわれるようになり、ステッキを使うことに抵抗を持つ人が増えていった……。

それが近年、ステッキがまた見直されている。気軽に持てる花柄などの「おしゃれなステッキ」が増え、自由に好みに合ったステッキが選べるようになったのである。

さらに今「こだわりの一本」として『木製ステッキ』が話題になっている。

高齢者への贈り物として、また植木感覚でこだわりの好きな木のステッキを求める人。さらに、アルミなどの金属製品では得



日本文化の象徴〈櫻（さくら）大曲〉。特徴的な柰目（もくめ）に加え、軽いことも魅力の一つ。金冠をアクセントに加えたものもある。¥38,500

*掲載したステッキの価格は、すべて参考価格です。（天然木のため変動があります。）

『チェリーマウンテン』へのこだわり

Cherry Mountain

土屋 雄一：土屋産業(株)・代表取締役社長

昔、ステッキ(杖)といえは全国各地の山々に自生している木をそのまま使用していました。なかでも「桜(櫻)」はステッキの代表的な素材でした。

ステッキの最初の思い出は小さい頃、庭先に積み上げられていた大量の「桜の木」の山」でした。もう40年も昔のこと、当時はなぜ庭にたくさんさんの桜が積まれていたのか解りませんでした。それは桜の皮付き大曲ステッキを作るための材料を家族で常に見守りながら自然乾燥させていたものだったのです。

こんな些細な昔の出来事ですが、「材料の選別から製品の完成までを一貫して行う」という伝統のステッキ作りにおける大事な工程の一つでした。

現在でもこの考えを社是とした、品質・安全性・デザインにこだわる老舗のステッ



ステッキの曲がりを確認する、土屋雄一社長。

キ屋として、日本を象徴する「桜」と、その美しい風景を持つ日本の良さ、美しさ、想いを東京・浅草橋から発信する。そういう思いを込めて、誰からも愛される『チェリーマウンテン』をブランド名にしました。



『相棒 season18』(2019年・テレビ朝日) 第6話「右京の目」劇中使用された〈No.202 オーク変形型〉¥8,250

弾力のある〈寒竹大曲〉は、孟宗竹の竹根を加工。節の数が多いほど高級品。 ¥165,000～

世界最高峰、ステッキの王様〈スネークウッド大曲〉。蛇の鱗の様な模様が魅力。 ¥880,000



られない、木の触感と着き心地を楽しむなど。若い人でもおしゃれアイテムとして、また歩行補助として使用するにも、より格好のいいモノとして『木製ステッキ』を求める人が増えてきているのである。

その人気の『木製ステッキ』に長くたずさわり、強いこだわりを持つ（土屋産業(株)）のモノ作りと銘木を見ていく。

最高の素材を最高の品質で

国内杖工房では、妥協を許さないモノ作りをするステッキ職人が、代々続く匠の技を屈指し、一本一本丁寧に作っていく。その行程とは……



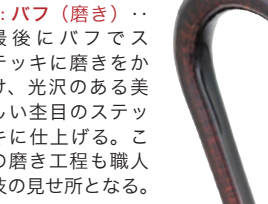
3: ため（微調整）・・・角材で仕入れしている材料は自然乾燥後、小さな反りをステッキ職人の感覚でまっすぐに修正。



2: 製材・・・杖手元や支柱に合わせた形状に製材。木材の種類によって様々な柰目（もくめ）があり、この柰目の取り方も職人の技術の一つ。柰目の取り方でステッキとしての十分な強度を確保することにもなる。



5: 色付け・塗装・・・染料が木材の導管に沈着するまで何度も行なう。この時間のかかるこだわりの作業が、柰目を生かした美しい深みのある色合いを作り上げる。色付け後、表面をウレタン樹脂で塗装仕上げ。



6: バフ（磨き）・・・最後にバフでステッキに磨きをかけ、光沢のある美しい柰目のステッキに仕上げる。この磨き工程も職人技の見せ所となる。



1: 素材・・・熟練したステッキ職人の目で厳選した材料を最低1年以上かけて自然乾燥。機械乾燥させた材料や湿気が十分に取りきれいな材料は、ステッキの変形の原因となるため、じっくりと自然乾燥させる。



4: ルーター（削り作業）・・・杖手元は、ステッキそれぞれに合わせた形に大まかにカット（杖手元作成／引抜）。材料を、何種類もの専用の刃物を用いて形を整え、最終的な杖手元の形に削りながら仕上げていく。



握り手部分の形状を「銀杏の実」の断面形状に似せて削り出した職人の技〈銀杏大曲(素材はオーク)〉。
¥36,300



全く異なる素材を、職人熟練の技術によって繋ぎ合わせた〈スネークチップハンドル(支柱は樺)〉。
¥41,800

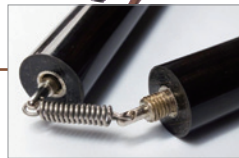
野趣あふれる質感そのままの〈コンゴ大曲〉。
¥22,000

杖手元に使われる鹿角は自然の形のままに。象牙や鯨歯先などは素材感を生かす。このように、いわれや物語を持つ天然木のステッキの奥深さを知ると、ますます新しい楽しみにもつながっていく。

つとネリコ。南米では神の木とも呼ばれるパウサンドウッドは、加工直後は薄茶や鶯色だが、経年で漆黒や緑色へと変化する。世界最高峰、ステッキの王者といわれるスネークウッドは、蛇の鱗のような個性的な斑紋があり重厚な印象を与える。昔から王室や貴族などの特別な階級のステータス・シンボルとして、また家宝として愛されてきた。入手が非常に困難な希少木で幻の木ともいわれている。堅い杖手元を大きく曲げる技術、彫刻や彫金などの趣向を凝らした装飾などと芸術性も高く、完成された高度な工芸品として皇族関係者や吉田茂、瀬戸内寂聴さんなどの著名人も使用。杖手元に使われる鹿角は自然の形のままに。象牙や鯨歯先などは素材感を生かす。このように、いわれや物語を持つ天然木のステッキの奥深さを知ると、ますます新しい楽しみにもつながっていく。



職人手彫りによるユニークなアニマルフレンズ。(左)〈レトリバー(樺)〉¥24,200
(下)〈猫型手元(樺)〉¥16,500



独自の開発による、四つ折木製杖〈スタンドグリップ(オーク)〉 ¥29,700



〈リハ並木祭&国リハ コレクション2019〉展示の様様。多くの人に、『木製ステッキ』など、様々なステッキを直接手に取り、感触を楽しんでもらう。(2019年10月19日・国立障害者リハビリテーションセンター)

『木製ステッキ』の中には、神秘の紫色の木パープルハートを始め、伝統的な寒竹の杖など、1本モノの高級天然木ステッキがある。中でも代表的なステッキが〈唐木三大銘木〉と呼ばれる黒檀、紫檀、鉄刀木。重硬で緻密でもあり、昔から珍重されてきた高級天然木である。

他にも稀少価値、鑑賞価値の高い天然木が多くある。木の美しさや色、形が特徴の花梨の瘤。渋柿の古木が長い年月をかけて黒色の紋様が現れる、希少性の高い黒柿。延寿という漢字が当てられ、病魔を払い寿命を延ばすという縁起の良いエンジュ。世界の中心にそびえる木、世界樹と呼ばれ、人類はその木から生まれたという神話を持つ

『木製ステッキ』
自然の形のままの天然木から、磨き上げた工芸品まで



現在、僅か4本のみの製造という〈黒柿プレミアムステッキ 究〉。多くの愛好家を惹きつけてやまない銘木。象牙リング付。¥450,000

銘木四角大曲ステッキ〈タモ〉。硬くて反発のある、日本の伝統木材。¥99,000

宝石のような紫色が美しい〈パールハート大曲〉。経年により紫から紫褐色へと変化。¥55,000



銘木四角大曲の〈紫檀大曲〉。しっかりと握った時、手に角が際立つ個性派ステッキ。¥110,000

希少種〈紫タガヤサン大曲〉は、使い込むことによってさらに紫褐色へと変化。非常に硬い銘木。¥55,000

希少素材の象牙を取り付けた、贅沢極まる逸品〈象牙チップ黒檀大曲〉。¥198,000

詳細は〈土屋産業 Webショップ〉
<https://tsuchiya-stick.shop-pro.jp/>
〈カタログ&問い合わせ〉
Tel : 03-3861-4621
Fax : 03-3864-6267
e-mail : shop@tsuchiyaasangyo.co.jp